

神様との出会いの中で

[聖書]出エジプト記 20章 1～4節、7～17節

神はこれらすべての言葉を告げられた。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。

あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。

安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人に関して偽証してはならない。隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

[1] 「神様の言葉で生きている」と言えるか

主イエス様は、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものである」(マタイ 4:4)とおっしゃいました。有名な言葉ですが、果たして私たちは、神様の言葉で生きていると言いきれているだろうか、いや、私はどうだろうか、そのことを改めて思わされています。私たちは「言葉」の洪水の中を生きています。テレビを付ければ人間のお喋りがいっぱいです。番組が終われば今度はコマーシャルの言葉が音楽と一緒に流れてきます。まだラジオや映画の方がいいと思いますけれども、考えてみればそれも人間の言葉です。小説も雑誌も、新聞も人間の言葉の集大成と言えるかもしれませぬ。または誰かと会話をする、電話をする、インターネットを使う…、私たちは意識的にか無意識的にか、人間の言葉を求めて生きているとも言える気が致します。では「神様の

言葉」に対しては？…私たちは神様の言葉で生きるものだとイエス様が言われるのに、そのようになっていない自分の姿に気が付かされるのです。

そういう現代的な環境もあるとも言えるのかもかもしれませんが、多分昔も今も変わらないと思うのです。「神様の言葉」に聴き、生きるということは、一つの決断が必要なことなのではないかと思います。私たちの生活の中でそのような生活を敢えて作る、ということの意味の大きさです。具体的には、一週間の初めの日に神様を礼拝する時を持ち、御言葉を頂くということがあると思います。

[2]「十戒」は神様からのラブコール

さて、今日は、有名な「十戒」(出エジプト記 20 章)をご一緒に学ぶように導かれています。これは「人間の言葉」ではありません。文字通り神様が、これを人々に伝えるようにと、山の上で、モーセにお与えになった律法、神の言葉です。それを神様ご自身が石の板に刻まれました。当時のイスラエルの民だけではありません。今の私たちにとっても、これは本当に大事な、私という人間を作る、そして共に生きる共同体をも形作る神様の言葉だと言えると思います。

「十戒」には、有名な言葉が多くありますね。文語の言葉で言うならば「汝殺すなかれ」「汝姦淫するなかれ」「汝盗むなかれ」…すぐに思いつくのはそのような禁止の命令の言葉です。私たちはどこかで「そんなの、もうわかっているよ。人間同士が生きる上での基本だろ。神様に言われなくても自発的にそういう生活を選び取ってゆけばよいのだ。命令はされたくない」と思わないでしょうか？私も実は、若い時はそう思っていました。しかし、そうではないのだ、ということが段々と分かって来たように思います。これは私たちが普通に考える「命令」ではないのですね。禁止の命令と言うと、私たちはすぐに刑法とか民法とか法律を思い起こして、それに違反した者は罰せられるということを考えてしまい。何か窮屈な教えのように問えてしまう所があると思います。

しかし、この「十戒」は、単なる裁きの言葉ではありません。その証拠に、神様は次の言葉を、この命令の言葉の前にまず語られているのです。2 節—「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。「十戒」の特徴は、それが教科書的な教訓や単なる命令ではなく、神様との＜関係＞の中で語られている言葉だということです。「あなたは孤独の中に生きているのではない、わたしがあなたに目を留め、あの奴隷の国から解放し、導き出した。わたしはあなたを愛している」。あなたは、わたしの手によって救われた！既にそのような事実があつて、その上で、この戒めは語られているのです。

「戒め」の厳しさというのは、「契約」「約束」ということの重さの裏返しではないでしょうか？その最も良い例は「結婚式」だと思います。誓約の時に司式者は問います。「この人を生涯の伴侶として愛し、尊び、…節操を守ることを誓いますか」と。その問いかけに、私たちは喜んで「はい。誓います」と応えます。決死の覚悟で言うのではありませんよね？そこに愛があるから当たり前のように「はい」と言うのです。「はい」と言わせるのは、**その関係が愛で結ばれている**からです。「十戒」の「～してはならない」という命令の言葉も、その中身は、「あなたはもはやそのように出来ない筈だ」ということです。「それほどの愛を受けているあなたが、その相手を裏切ることなど出来ない」ということです。「十戒」は、**神様からのラブコール**です。「私の愛に応答して欲しい、そこから始めて欲しい」と。改めて思わされることは、「信仰」とは、アタマだけではなく、この実際の体も含めた**私全体として神様に従って行くこと**なのだということです。先週お話ししましたバプテスマというのも、基本、全身を水に浸す行為ですよ。この私全部が神様のものとされるという霊的な意味もありますよね。

[3] 神様の「宝の民」とされて

「十戒」の内容を丁寧に見ていくことは今朝は出来ませんが、新約の時代、イエス様は、或る律法の専門家の「律法の中で何が最も重要ですか」との問いに対して、イエス様はそれは二つだとおっしゃり、「**心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛すること**」と「**隣人を自分のように愛すること**」とお答えになり、膨大な律法もこの二つに集約されるとおっしゃいました。（マタイ 22:36 以下）。「十戒」もそうですね。初めの4つは、私たちが神様との愛の関係に生きること、そして後半の6つは、私たちの人間関係の戒めですが、イエス様は、それを単なる隣人愛ではなく、「**自分のように隣人を愛する**」とおっしゃったのです。考えさせられます。殺人も、姦淫も、盗みも、偽証も、貪りも、その行為は、実は深い所で自分自身を大切にしないこと、自分の尊厳を傷つけることと繋がっているのだと思いました。「人間とは本当に尊ばれなければならないものなのだ」と、神様ご自身がおっしゃっているのです。

出エジプト記の今日の箇所の前 19 章を見ると、神様はイスラエルの民に、「**あなたはわたしの声に聴き従い、この契約を守るなら、全ての民の間であって、私の宝となる**」(19:5)とおっしゃいました。これが神様の思いなのですね！神様は神様が造られた私たちを本当に愛して、助けて下さったのです！強い手を用いて、海を二つに割いてでも救って下さったのです。神様にとって「**宝の民**」だからです。大事なのは、**そこには「選別」がない**ということです。イスラエルの**全ての人**が海を渡ったのです。イエス様が来て下さったというのもそういうことですよ。

「あの人は例外」なんていうことはないのです。神様の憐みは本当に、私たちの思いを超えて大きい。どれだけ大きいのか。神の御子が、十字架でご自分の肉を裂き、血を流され、いのちを捨てられるほどに大きいのです。

私たちは、礼拝を通し、また聖書を通し、この神様と出会いました。私たちは、人間の言葉ではなく、「神様の言葉」を通して、このお方と出会ったのです。「十戒」の言葉も、神様の言葉です。私たちが神様の前に立たせます。そして問われるのです。「私は全ての人を愛している。この愛に出会ったあなたは、他者の命も重んじて欲しい。自分を愛するように、あなたの隣人を愛して欲しい。殺すな。姦淫するな。盗むな。偽証するな。父母を敬え。人間関係を破壊することは、ある意味たやすいかもしれない。けれど、私に愛されているあなたは、破壊ではなく、繋ぐこと、裁くことではなく、受け入れることを努めて欲しい。あなたは私の宝の民なのだから」とおっしゃっているのではないのでしょうか。神様は私たちの罪も弱さをよくご存じです。ですから初めの方で「わたしの他に何者も神としてはならない」とおっしゃっているのです。「わたしの愛の中にとどまりなさい」と。

「十戒」は、とても今日的な神様の言葉のように思うのです。特にこの新型コロナウイルスが蔓延している今の時代、「排除」とか「分断」ということが切実になっていますよね。ソーシャルディスタンスという技術だけでなく、「自分を愛するように隣人を愛する」心が失われると、この世界は続かなくなってしまうのではないのでしょうか。その中で十戒は、本当に「他者と共に生きる」ことへの神様の促しの言葉だと思えてなりません。それを、今私たちは、主の十字架の大きな愛を通して語られている言葉として聴き、この主に従って行きたいと思います。

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。

お祈り致します。

神様、あなたがわたしたち一人ひとりを重んじ、出会って下さることを感謝致します。あなたは「あなたは私の宝の民」「あなたはわが目に尊く重んぜられる者」とさえ言って下さいます。本当ですか？と疑ってしまう私たちの罪をお許してください。あなたが命がけでこの私を愛して下さったその事実を無駄にすることがありませんように。いつもあなたの言葉を新鮮に聞かせて下さい。あなたに感謝をささげ、あなたを愛し、また、隣人を自分のように愛していくその信仰をあなたがわたしたちの内に作って下さい。主イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。